

(48)

氏名(生年月日)	ハシ 橋	モト 本	ヒツ 節	コ 子
本 籍				
学位の種類	医学博士			
学位授与の番号	乙第800号			
学位授与の日付	昭和62年1月23日			
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	空中真菌相について 気管支喘息児の家庭内真菌分布に関する検討			
論文審査委員	(主査)教授 福山 幸夫			
	(副査)教授 吉岡 守正, 教授 香川 順			

論 文 内 容 の 要 旨

目的

東京女子医大第2病院小児科アレルギー外来に通院中の気管支喘息患児の中に、家庭内で皮革加工を職業としている症例が多い事を認め、これら皮革材料を汚染すると考えられる真菌が、気管支喘息の原因抗原になるかどうかを追求する目的で、これら気管支喘息患児の家屋内の空中真菌分布と屋外の真菌分布を調査し、さらにはこれら空中真菌と気管支喘息患児の臨床症状との相互関係について検討した。

方法

対象および採集地：東京都荒川区在住の家内で皮革加工業を営む家庭の気管支喘息患児8名宅の居間および仕事場で真菌を採集した。対照として当院病室、病院周辺の屋外、一般家庭内の喘息児2名の居間、健康児2名の居間でも採集した。

空中真菌の採集方法：クロラムフェニコール添加ジャガイモ・ブドウ糖寒天の平板を10分間大気中に暴露する落下法を用いて採集し、25℃、14日間培養後、出現した巨大集落を計数し、菌種別に、ツァベック寒天、ジャガイモ・ニンジン寒天、オートミール寒天の斜面培地にそれぞれ釣菌分離した。採集期間は、1980年1月から1981年3月まで行い、各場所で月2回採集した。

結果

全採集場所から検出された真菌は、接合菌類2属、子囊菌類7属、不完全菌類34属の合計43属で、総菌数は10106集落であった。最も高い検出率はCladosporium属で全検出菌の25.4%を占め、次いでPenicillium

属、Arthrinium属、Aspergillus属、Alternaria属であった。また各場所での検出率もほぼ同様であった。空中菌の年間経時変化は、仕事場、居間で類似し、Penicillium、Aspergillusは年間を通して検出された。屋外は屋内に比べ年間を通し菌数増多が認められた。秋季は屋内外でCladosporiumが増多した。空中菌が最も多く検出された11月について、各場所で比較すると、健康小児家庭での菌数が最も少なく、Cladosporiumの検出も低率であった。さらに家屋内の空中菌の年間経時変化と気管支喘息発作状況の関係では、皮革加工家庭の対象喘息患児8名の中から特に皮内テストにおいて、Aspergillusに陽性を示した症例1とPenicilliumが異常な増加を示した症例2について、臨床症状と検出菌の種類、菌数の増加との間に相関を認めた。

考察

桑田は皮革を汚染する主要菌は、Aspergillus、Penicillium、Paecilomyces等であると述べている。患児宅で、これらが多数検出された事は、皮革が汚染源となっている可能性が示唆され、患児の臨床症状と相関が認められた事や、健康児家庭内真菌数が最少であった事から、治療上、環境調整の必要性が強調されるべきと考えられた。

結論

対象喘息患児家屋内空中真菌分布を調査し、患児の臨床症状と真菌分布に相関を認めた。

論文審査の要旨

本研究は、東京都在住の気管支喘息児が、皮革加工を職業としている家庭に比較的多い事にに基づき、それらの家庭の居間・仕事場で15カ月間に亘って毎月2回宛真菌を採集培養し、患家においては、健康小児家庭に比し、真菌数が明らかに多いこと、菌種としてはCladosporium属、Penicillium属などが多いこと、真菌数の季節的変動と喘息発作の変動との間に相関があることなどを実証した、学術上価値ある研究である。

主論文公表誌

空中真菌相について 気管支喘息児の家庭内真菌分布に関する検討

東京女子医科大学雑誌 第56巻 第10, 11号
969～980頁（昭和61年11月25日発行）

副論文公表誌

- 1) 潰瘍性大腸炎3症例のX線経過観察所見
小児内科 15 (3) 408～409 (1983)
- 2) 急性肋骨骨髓炎の1例
小児外科・内科 7 (8) 882～883 (1975)

- 3) 小児気管支喘息に対する新経口抗アレルギー剤
Oxatomide ドライシロップの臨床評価—多施設二重盲検試験による—
小児臨 38 (2) 423～435 (1985)
- 4) 小児気管支喘息に対する新経口抗アレルギー剤
Oxatomide ドライシロップの長期使用経験
新薬と臨床 33 (10) 1437～1446 (1984)
- 5) 夜尿症に対する小建中湯の治療経験
東方医学雑誌 2 (1) 52～59 (1986)
- 6) 気管支喘息治療薬
小児科・特 14 26 (12) 1633～1644 (1985)